

グローバル地域文化学部で何をどのように学ぶのか

今日、インターネットの発達により、われわれは日本にいても瞬時に世界各地のニュースに接することができます。インターネットを通して世界各国の全国ニュースだけでなく、その国の地方の新聞を読み、テレビを見て、ラジオも聴くこともできます。またSNSを通じて現地に住む個人の様々な意見に接することができるだけでなく、無料で現地に住む人の顔を見ながら通話することができます。これは1980年代以前ではありえなかったことで、今日の世界では情報がグローバル化されていることがみてとれます。

1990年代以降のグローバル化の進展は、こうした情報のグローバル化に限らず、人の国際的移動の飛躍的な拡大、貿易の自由化による国際的物流の大幅な増加、金融の自由化によるお金の国際的移動も大幅に増大しています。現在は新型コロナウイルスの影響で京都では海外からの観光客がみられませんが、新型コロナウイルスが広がる以前は多くの海外からの観光客がみられました。こうした海外から日本に来訪する人は、単に観光だけではなく、留学や仕事など多様な目的で多様な人が来日し、それと同様に日本からも海外に多くの人々が出向いています。こうしたグローバル化の進展は、もう後戻りすることはないでしょう。

みなさんがご入学されたグローバル地域文化学部は、ヨーロッパコース、アジア・太平洋コースとアメリカコースの三つのコースから構成されています。各コースで、それぞれの地域の歴史、文化や社会に関する知識を得ると同時に、自らそれらについて考えることが求められています。とはいえ、そうした各地域は先ほど述べましたグローバル化された世界にあります。みなさんが学ばれる地域とは、そうしたグローバル化した世界における地域なのです。そのため、みなさんはグローバルな課題と地域固有の課題を総合的に学ぶ必要があります。グローバル地域文化学部のカリキュラムは、そうしたグローバル化した地域を学べるように構成されています。

とはいえ、グローバル地域文化学部に限らず大学における学びは、授業やゼミで単に受け身で知識を得ることだけでなく、そこで得た知識をきっかけとしてみなさん自身で学びを主体的に深めることが必要です。主体的に学ぶとはどうすればよいのでしょうか。みなさんはグローバル地域文化学部の授業やゼミで学んだ事象に関心を持つことでしょうか。大学の学びにおける最大の能力の一つが、興味を持つことです。関心や興味をもったある地域の事象に対して、つぎにそれと関連した授業を受講し、また関連した論文等を読み進めることが必要です。そうしてある地域の事象に対する知識が増大したら、それをどのように分析するのかという分析の手法を学ぶ必要があります。さらに、先に述べたように今日の地域はグローバル化された世界における地域です。そこではグローバル化に関連した知識も必要になるでしょう。こうして、本学部のカリキュラムを最大限利用して、みなさん自身により主体的に体系化された学びを本学部で実現してください。

グローバル地域文化学部
学部長 宇佐見耕一

目指すべき人物像

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ3つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって国内外のあらゆる場面で活躍し、本学の教育理念のひとつである国際主義を更に推進できる、良心と自由な精神を備えた人物の育成を目的としている。従って、本学部では、世界の中で自身の地歩をしっかりと持つ自立心と独創性、自身とは異なる価値観を受け入れることのできる、広い識見に支えられた寛容さと柔軟さ、および隣人との関係性の内に地球規模の課題を発見し、希望ある共生社会を構想する高い志を身に付けさせる。

- 複数の外国語を運用することができ、地域文化に関する学際的な知識を持つとともに、それらをグローバルな視野から多角的かつ批判的に考察することができる。(知識・技能)
- 世界の惨状や人々の哀しみに感応しつつ現代世界が抱える諸問題を自ら発見・理解するとともに、その解決へ向けた方途を柔軟かつ独創的に思考することができる。(思考力・判断力・表現力)
- グローバル社会の流動的な境界に対する鋭敏な感性を持ち、他者を尊重する寛容さや協調性および良心ある知性に基づいて、希望ある共生社会の構想と実現に向けて貢献できる。(主体性・多様性・協働性)

〈2018年度以降生対象〉カリキュラム・ポリシー

本学部のカリキュラム編成の基本方針は、世界の諸地域が抱える現代の問題とグローバルな課題の間の密接な関連を理解し、国内外のあらゆる場面で活躍できるような人物を育成することにある。この基本方針に基づき、1学科3コースのカリキュラムとして必修科目(28単位)、選択必修科目A群(6単位以上)・B群(1単位)・C群(24単位以上)、選択科目A群(20単位以上)・B群・C群(16単位以上)・D群を設置し、124単位の修得を卒業要件とする。

▶必修科目

- 必修科目群の講義科目は、1年次に8単位を履修し、グローバル化する世界や各地域の現状に関する基礎知識やそうした現状を学ぶ視点などを習得する(知識・技能)。
- 必修科目群の演習科目は、1年次から4年次まで段階的に12単位を履修する。1年次では大学で学修を進めていく上で基本的な姿勢や技法を主に身に付けること(知識・技能)、3年次から4年次にかけては卒業論文の執筆に向けて学術的な研究テーマを立て、自ら調査・研究を進められるようになることに力点を置く(主体性・多様性・協働性)。(2年次は、下記選択必修科目A群のグローバル地域文化教養セミナー科目群にある演習を選択する。)
- 4年間の学びの集大成として、自ら問いを立てた研究テーマについて、4年次に個別指導を受けつつ、各自で研究・調査を進め、卒業論文(8単位)としてまとめる(主体性・多様性・協働性)。

▶選択必修科目A群

- 選択必修科目A群(グローバル・イシュー科目群およびグローバル地域文化教養セミナー科目群)では、主に1年次から3年次にかけてグローバル・イシュー科目群から4単位以上、およびグローバル地域文化教養セミナー科目群から2単位以上を含む6単位以上を選択履修する。複数の国や地域にまたがるグローバルな現象と課題の基礎知識を獲得し(知識・技能)、調査や分析を行なうための学問的手法を身に付け(思考力・判断力・表現力)、希望ある共生社会を積極的に模索する(主体性・多様性・協働性)。

▶ 選択必修科目B群

- 選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）では、既に修得した外国語運用能力や当該地域に関する知見を生かしつつ、異なる歴史や文化を背景とする人々と日々積極的に交流することを目標に、1単位を選択履修する（主体性・多様性・協働性）。

▶ 選択必修科目C群

- 選択必修科目C群（外国語科目群）では、諸地域の歴史や文化を正確に理解するためのスキルとして複数の外国語運用能力を高めることを目指し、英語に加え11言語の中から1言語を選択し、主に1年次から3年次にかけて、第一言語は14単位以上、第二言語は10単位以上を履修する（知識・技能）。

▶ 選択科目A群

- 選択科目A群の「歴史」と「文化」の講義科目群では、1年次から3年次にかけて基礎から発展へと段階的に履修することを通じて、各地域の文化と社会の歴史的形成過程や多様性について基礎的な知識を習得し（知識・技能）、諸現象を的確に理解・分析する能力を培う（思考力・判断力・表現力）。また、主体的かつ対話的な学びを通じて、多様に富んだ社会に適応し、異なる歴史や文化をもつ人々と協働できる力を養う（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の「課題」分野の講義科目群では、現代世界が抱える特定のトピックに絞って深く学び、その問題の打開策について検討し（思考力・判断力・表現力）、良心ある知性をもって他者と協調しつつ行動する志を育む（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の実践科目群では、自ら問いを立てて調査を行う方法を他者との関わりの中で実践的に学ぶ科目（主体性・多様性・協働性）や、調査に基づく研究成果を効果的にプレゼンテーションするための能力を養うための科目を配置する（知識・技能）。

▶ 選択科目B群

- 選択科目B群（地域文化研究隣接科目群）は、必修科目群および選択科目A群を補完・強化する社会科学系の講義科目であり、各自の関心に沿って履修し、研究対象地域や研究方法などに関する知識を深めることを目指す（知識・技能）。
- 各言語を用いて各地域の研究に必要な語学力、および地域文化研究のための研究能力の向上を目指し、最終的に卒業論文を現地語資料の読解をとおして執筆できる能力を育むことを目的とする（知識・技能）。

▶ 選択科目C群

- 選択科目C群は、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、免許資格関連科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目などから構成され、グローバル社会に対応できる幅広い知識と柔軟な発想力の習得・強化を目指し、16単位以上を選択履修する（知識・技能および思考力・判断力・表現力）。

▶ 選択科目D群

- 選択科目D群では、各言語を用いて各地域の研究に必要な語学力、および地域文化研究のための研究能力の向上を目指し、最終的に卒業論文を現地語資料の読解をとおして執筆できる能力を育むことを目的とする（知識・技能・表現力）。

▶ 免許・資格関連科目

- 中学校教諭（社会）および高等学校教諭（地理歴史）の免許取得に必要な免許・資格関連科目を設置する。該当する免許の取得を希望する学生は、免許・資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。
- 博物館学芸員、図書館司書、および学校図書司書教諭の免許の取得を希望する学生は、免許資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。

〈2017年度以前生対象〉カリキュラム・ポリシー

本学部のカリキュラム編成の基本方針は、世界の諸地域が抱える現代的問題とグローバルな課題の間の密接な関連を理解し、国内外のあらゆる場面で活躍できるような人物を育成することにある。この基本方針に基づき、1学科3コースのカリキュラムとして必修科目（28単位）、選択必修科目A群（6単位以上）・B群（1単位）・C群（24単位以上）、選択科目A群（20単位以上）・B群・C群（16単位以上）を設置し、124単位の修得を卒業要件とする。

▶必修科目

- 必修科目群の講義科目は、1年次と2年次に8単位を履修し、グローバル化する世界や各地域の現状に関する基礎知識やそうした現状を学ぶ視点などを習得する（知識・技能）。
- 必修科目群の演習科目は、1年次から4年次まで段階的に12単位を履修する。1年次では大学で学修を進めていく上で基本的な姿勢や技法を主に身に付けること（知識・技能）、2年次では資料の収集力や分析力だけではなく、学修成果を発信する力も向上させること（思考力・判断力・表現力）、3年次から4年次にかけては卒業論文の執筆に向けて学術的な研究テーマを立て、自ら調査・研究を進められるようになることに力点を置く（主体性・多様性・協働性）。
- 4年間の学びの集大成として、自ら問いを立てた研究テーマについて、4年次に個別指導を受けつつ、各自で研究・調査を進め、卒業論文（8単位）としてまとめる（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目A群

- 選択必修科目A群（グローバル・イシュー科目群）では、主に1年次から3年次にかけて6単位以上を選択履修する。複数の国や地域にまたがるグローバルな現象と課題の基礎知識を獲得し（知識・技能）、調査や分析を通じて考察を深め（思考力・判断力・表現力）、希望ある共生社会を積極的に模索する（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目B群

- 選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）では、既に修得した外国語運用能力や当該地域に関する知見を生かしつつ、異なる歴史や文化を背景とする人々と日々積極的に交流することを目標に、1単位を選択履修する（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目C群

- 選択必修科目C群（外国語科目群）では、諸地域の歴史や文化を正確に理解するためのスキルとして複数の外国語運用能力を高めることを目指し、英語に加え11言語の中から1言語を選択し、主に1年次から3年次にかけて、第一言語は14単位以上、第二言語は10単位以上を履修する（知識・技能）。

▶選択科目A群

- 選択科目A群の「形成」と「多様性」の講義科目群では、1年次から3年次にかけて基礎から発展へと段階的に履修することを通じて、各地域の文化と社会の歴史的な形成過程や多様性について基礎的な知識を習得し（知識・技能）、諸現象を的確に理解・分析する能力を培う（思考力・判断力・表現力）。また、主体的かつ対話的な学びを通じて、多様性に富んだ社会に適応し、異なる歴史や文化をもつ人々と協働できる力を養う（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の「課題」分野の講義科目群では、現代世界が抱える特定のトピックに絞って深く学び、その問題の打開策について検討し（思考力・判断力・表現力）、良心ある知性をもって他者と協調しつつ行動する志を育む（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の実践科目群では、自ら問いを立てて調査を行う方法を他者との関わりの中で実践的に学ぶ科目（主体性・多様性・協働性）や、調査に基づく研究成果を効果的にプレゼンテーションするための能力を養うための科目を配置する（知識・技能）。

▶**選択科目B群**

- 選択科目B群（地域文化研究隣接科目群）は、必修科目群および選択科目A群を補完・強化する社会科学系の講義科目であり、各自の関心に沿って履修し、研究対象地域や研究方法などに関する知識を深めることを目指す（知識・技能）。

▶**選択科目C群**

- 選択科目C群は、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、免許資格関連科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目などから構成され、グローバル社会に対応できる幅広い知識と柔軟な発想力の習得・強化を目指し、16単位以上を選択履修する（知識・技能および思考力・判断力・表現力）。

▶**免許・資格関連科目**

- 中学校教諭（社会）および高等学校教諭（地理歴史）の免許取得に必要な免許・資格関連科目を設置する。該当する免許の取得を希望する学生は、免許・資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。
- 博物館学芸員、図書館司書、および学校図書司書教諭の免許の取得を希望する学生は、免許資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。